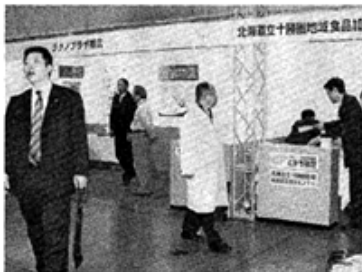


2005年(平成17年)11月11日(金)(第3面)

# ビジネスEXPO 十勝発の「技術」PR ズコーシャなど3社・団体

【札幌】道内最大規模のビジネスイベント「ビジネスEXPO・第19回北海道技術・ビジネス交流会」(実行委など主催)が10、11の両日、アクセ

十勝圏振興機構らのブースで足を止める来場者



けに志した3社(団体)が出展、来場者に十勝の取り組みをPRした。

道内企業221社・機関が出展した大展示場は「IT・電気・機械」「バイオ・環境・福祉」「ベンチャー」「地域創造」の4ブロックで

スザッポロ(白石区)で開かれた。十勝圏振興機構(とち財団)と文部科学省・都市エリア産業官連携促進事業(十勝エリア)、同機構の呼び掛

構成。とち財団だが、地域創造ブロックとして10ブースを借り上げた。都市エリア産業官連携促進事業のブースでは、「パ

レイシヨからの有用ペプチドの生産技術開発」「ナガイモを利用した機能性食品の開発」など5事業をパネルで紹介。ズコーシャ(帯広市)は、

道経産局の地域新生コンソーシアム研究開発事業に認定された「産業用ラジコンヘリを利用した小麦収穫支援システム」を実際にヘリを展示してPRした。

森産業(十勝町)は、同社が生産するカールスプラウトや、道経産局の中小企業・ベンチャー挑戦支援事業に採択された堆肥攪拌(たいひかく)装置を並べ、テクノ

プラザ帯広は同組織の構成や会員企業の商品を紹介した。

来場者は、各ブースのパネルや商品を興味深げに見詰り、担当者から説明を受けていた。とち財団の飛川剛コディネーターは「都市エリアのテーマに関心をもってくれる人が多い」と手応えを感じていた。

十勝関係では、このほかにイチイ(帯広市)、マテック(同)、土谷特殊農機製作所(同)、帯広地域共同研究センターが出展した。

(澤村真理子)